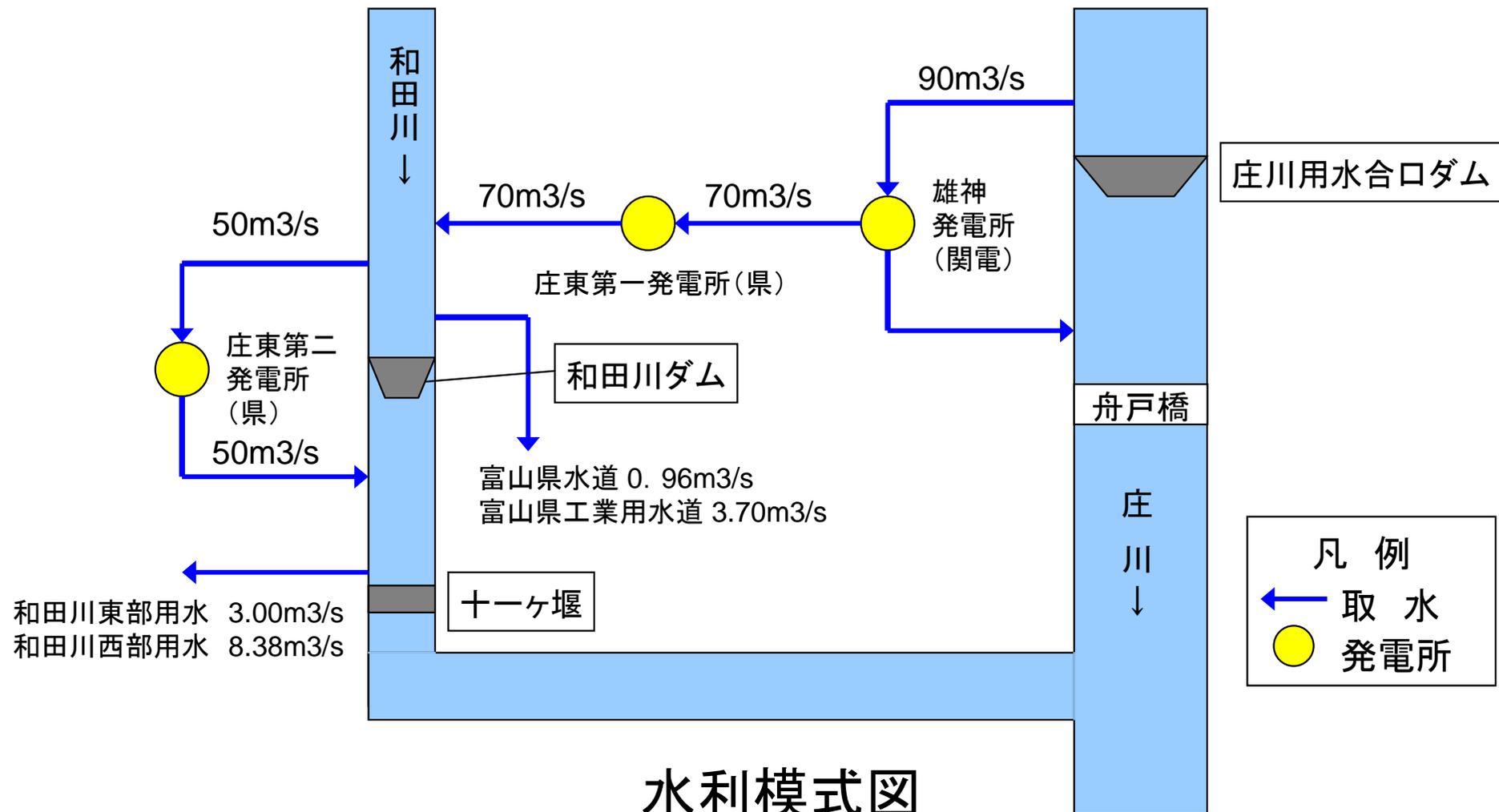


第5回庄川流域懇談会

(補足説明資料)

庄川からの取水による和田川の水利用

- ・庄川から和田川への取水量は最大70m³/s
- ・発電や農業用水、水道、工業用水に利用
- ・富山県による発電で得られた収益は、県財政へ繰入



水利模式図

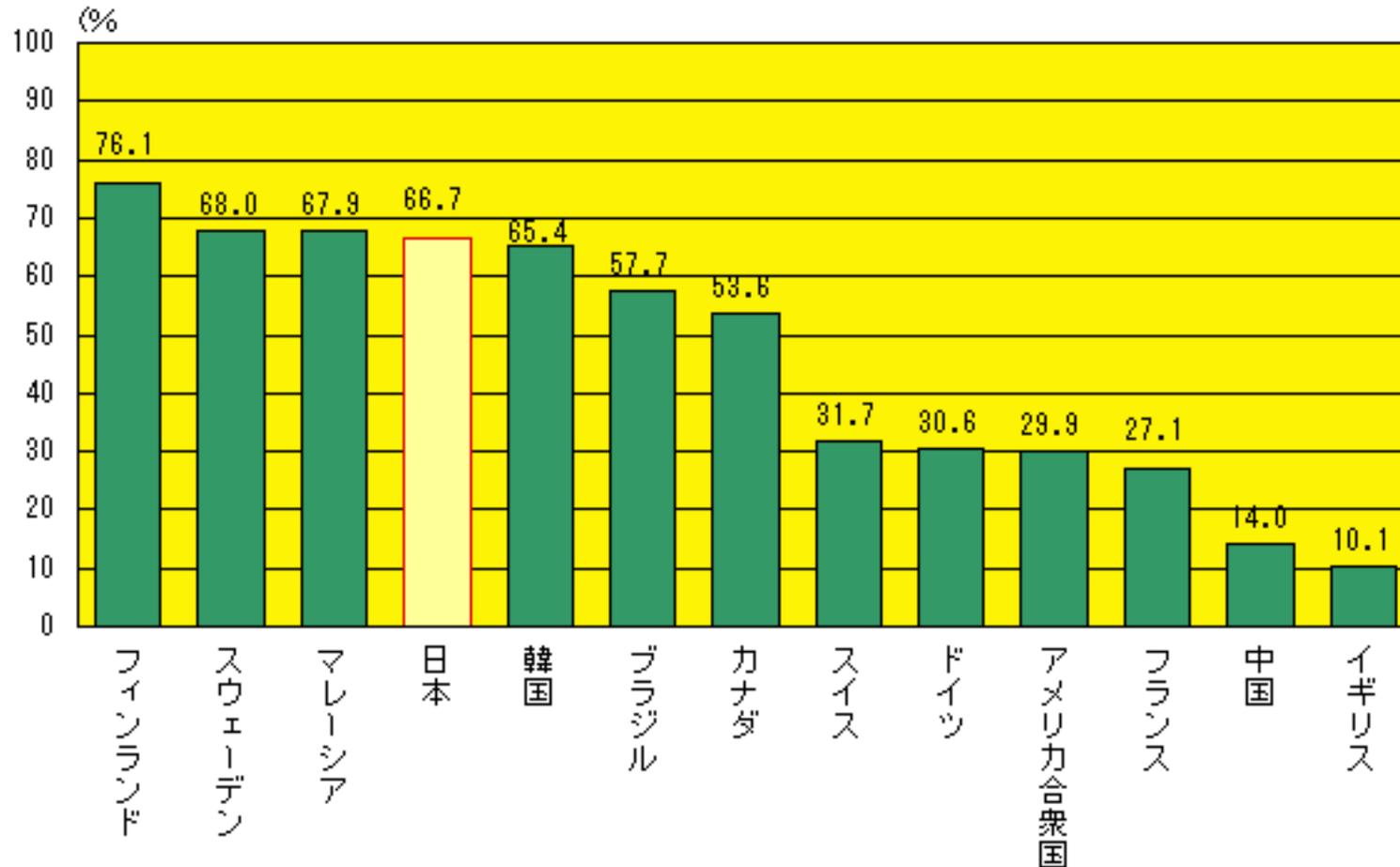
※取水量は最大値を記載

緑のダムについて

○「緑のダム」による治水機能の代替は可能か？

- ① 我が国は、世界の中でも北欧諸国等に次ぎ**森林面積率の高い国**です。

日本はすでに世界有数の森林保有国。
この森林の存在を前提として大洪水、大渇水に対して計画を立案。
現状の森林を大切に保全することが重要。



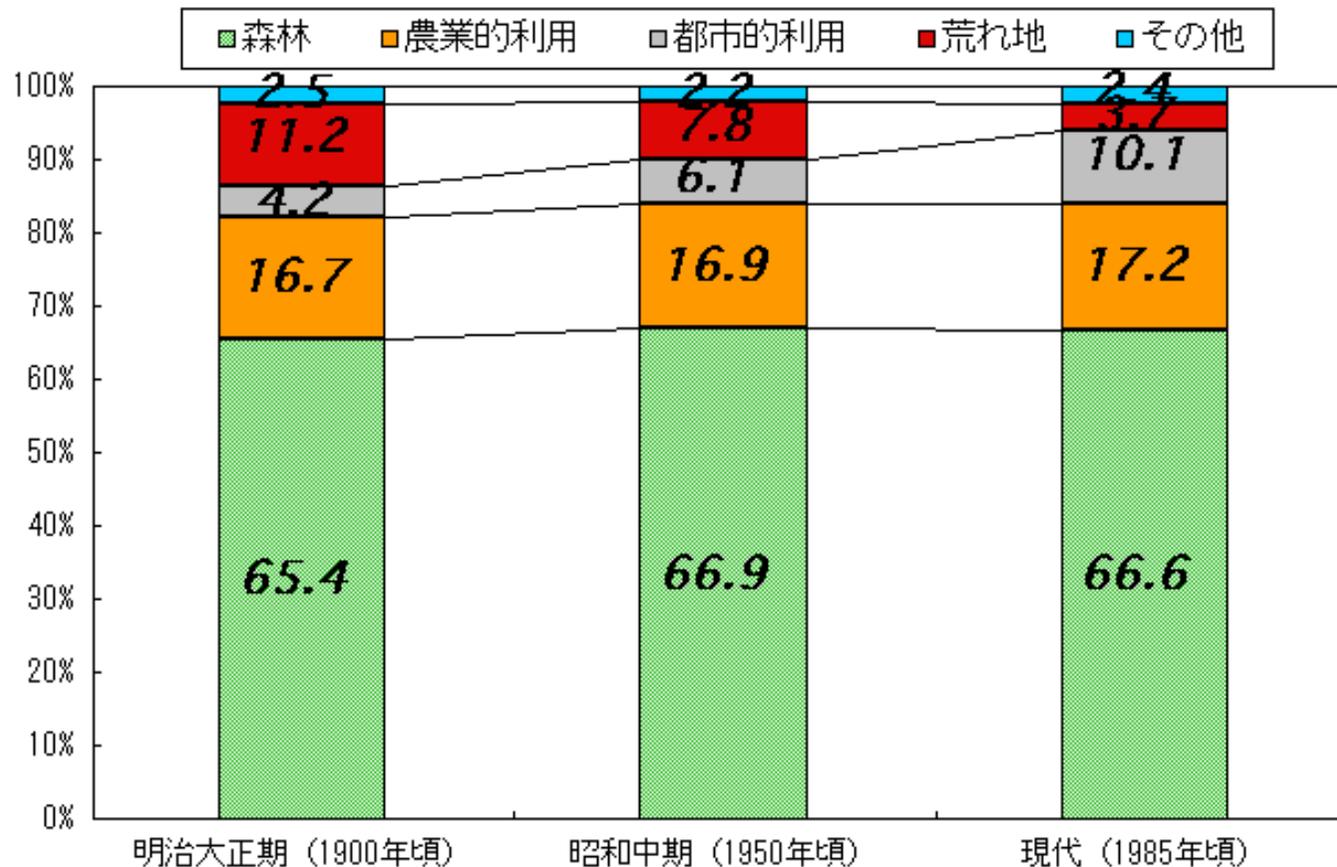
森林面積率の国際比較

緑のダムについて

○「緑のダム」による治水機能の代替は可能か？

- ②国土面積の約2／3を森林が占め、現在は**歴史上森林が良好に保存されている時期**に属し、これ以上森林を増加させる余地は少ない状況です。

森林面積は過去100年間で大きな変化はなく、国土の約7割を占めているにもかかわらず洪水や渇水は頻発してきた。

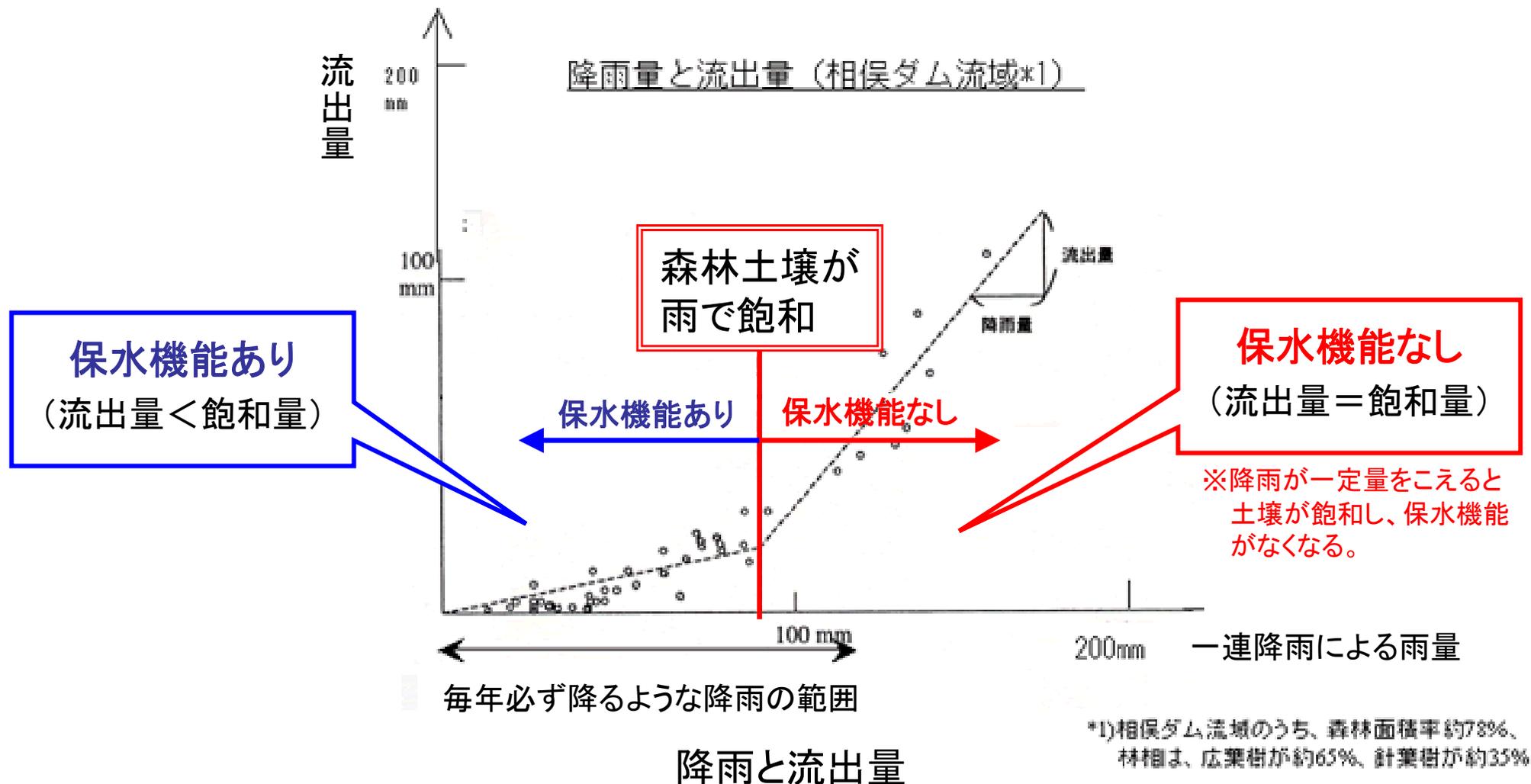


国土利用の変化

緑のダムについて

○「緑のダム」による治水機能の代替は可能か？

- ③森林は、中小洪水に一定の効果をもつものの、治水計画の対象となるような大雨の際には、森林域からも降雨はほとんど流出することが観測結果からも伺えます。従って、必要な治水機能の確保を、森林の整備のみで対応することは不可能です。



洪水による「破壊」と「再生」の状況

○平成16年10月台風23号洪水による植生面積の変化

平成15年



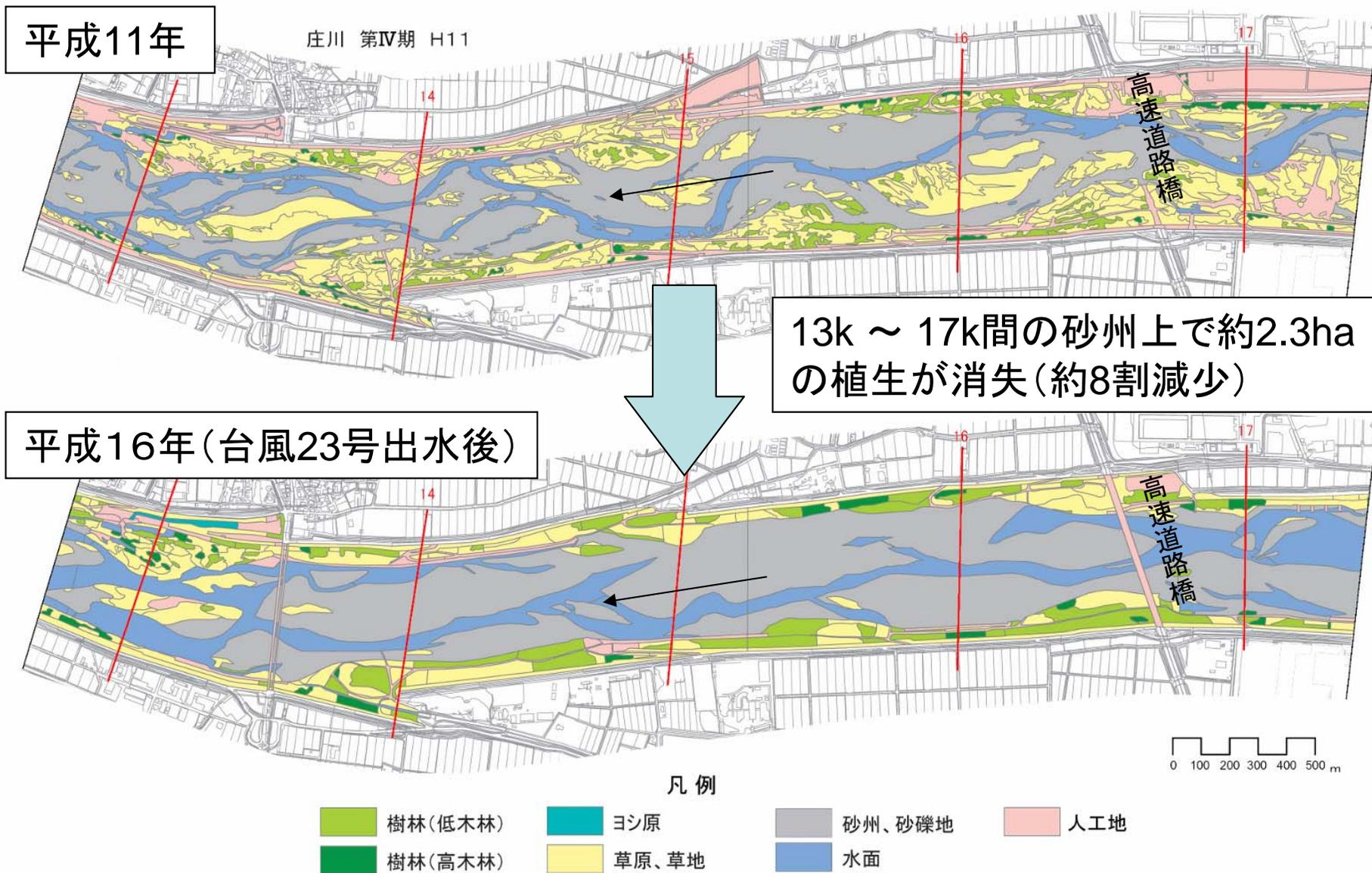
平成16年(台風23号出水後)



庄川(中田橋 ~ 砺波大橋区間)

洪水による「破壊」と「再生」の状況

○平成16年10月台風23号洪水による植生面積の変化



庄川(中田橋 ~ 砺波大橋区間)